



## ～6月は土砂災害防止月間～

- 家の周りの点検・清掃をしておく  
家の周辺の側溝の落ち葉や土砂などを取り除き、水はけをよくして雨水の流れをせき止めない様におきましょう。
- 防災マップで警戒区域を確認する  
上島町防災マップで土砂災害の危険がある場所を確認し、避難場所や避難ルートを確認しておきましょう。
- 非常持出品を準備しておく  
非常時に備え、食料品や飲料水、懐中電灯、医薬品、衣類等をまとめた非常持出袋を用意しておきましょう。
- 気象情報に注意する  
日頃から気象情報に注意し、テレビ、ラジオ、インターネットを通じて雨量や台風情報の確認をする様におきましょう。



## 【梅雨や台風に備えましょう】

災害に対する備えはできていますか。これからの時期は大雨や台風などで水害や土砂災害の危険性が高まります。素早く避難するためには、日頃からの備えが大切です。  
災害への意識を高く持ち、自らの命と大切な人の命を守るため、今からできる準備はしっかり整えましょう。

## 熱中症を予防して元気な夏を！

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。

熱中症予防の行動ポイントとして、以下の項目に心がけて下さい。

- 部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。
- のどが渇いていなくても、こまめに水分補給をしましょう。
- 涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう。
- 熱中症特別警戒アラート発令中**は、外出をできるだけ控え、暑さを避けましょう。

## 熱中症予防運動指針（暑さ指数）

| 24℃未満  | 24～28℃   | 28～31℃ | 31～35℃   | 35℃以上   |
|--------|----------|--------|----------|---------|
| 21未満   | 21～25    | 25～28  | 28～31    | 31以上    |
| ほぼ安全   | 注意       | 警戒     | 嚴重警戒     | 危険      |
| 適宜水分補給 | 積極的に水分補給 | 積極的に休憩 | 激しい運動は中止 | 運動は原則中止 |

※熱中症特別警戒アラートは、翌日の日最高暑さ指数が35以上になると予測した場合に環境省が発表し、報道機関等により周知されます。

## 令和7年4月出動件数

| 地区  | 弓削 | 生名 | 岩城 | 魚島 | その他 | 合計 | R7累計 |
|-----|----|----|----|----|-----|----|------|
| 火 災 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0  | 0    |
| 救 急 | 17 | 9  | 7  | 0  | 1   | 34 | 141  |

(令和 7年 4月30日現在)

【上島町消防署】 ☎77-4118  
【上島町消防本部消防防災課】 ☎77-3166

共に守ろう、大切な人とふるさとを  
消防団員**絶賛**募集中！



## 事業者の熱中症対策が義務化されます

熱中症の重篤化を防止するため、令和7年6月1日に改正労働安全衛生規則が施行され、「体制整備」「手順作成」「関係者への周知」が事業者に義務付けられます。

対象となるのは、**気温31度以上**の環境下で**連続1時間以上**または**1日4時間**を超えて実施が見込まれる作業です。

詳しくは、厚生労働省のホームページ等でご確認ください。



4月13日より大阪市豊洲にて「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開催されています。IT技術やロボット技術などの社会実装に向けた各国の取り組みなどが紹介されているようです。

今回は農業分野における先進技術（スマート農業技術）について紹介します。

## 1 スマート農業技術とは

スマート農業技術は、IT技術（コンピューター等の情報通信技術の活用）やロボット技術（作業の自動化）を利用した農作業の効率化、省力化、高品質生産を目指す農業技術のことを指します。具体的には①ドローン（無人航空機）による施肥や農薬散布やドローン画

像による生育・病害虫診断、②農業ロボットや自動走行機械による耕運、播種、収穫などの農作業の自動化、③衛星画像、センサーデータ、画像データをAI（人工知能）による生育の最適化、見える化、④アシストスーツによる力仕事や作業補助などが開発・実用化されてきました。農業の人手不足や高齢者の負担軽減技術として開発が急がれる分野です。

## 2 カンキツ栽培とスマート農業

上島町の主要作物であるカンキツとスマート農業について考えてみました。農林水産省のホームページでスマート農業技術の紹介や法整備などが閲覧できます。カンキツ栽培で何とかならないかと考える作業として、夏場の高温下での防除や草刈り作業を考える生産者は多いと思います。乗用の防除機はありますが走行用の園内道が必要で既存園での導入は難しいことから空からドローンによる防除なら可能な園地が多いと思われるます（写真1）。自動飛行散布もでき短時間で農薬散布が可能で大幅な作業負担の軽減になります。しかし、課題も多く、効果が手散布よりも劣る薬剤がある、障害物や園地条件で飛行ができない園地が多い（電線、雑木等）、法



写真1 ドローン防除(DJI製)



写真2 ロボット草刈機(和同産業製)

整備が進み散布できる農薬が増えたが年間防除には至っていない、機体が高価、飛行資格が必要など個人所有で防除利用だけではコストがかかります。しかし、最近、請負業者も増えてきて多少の効果不足と作業コスト（請負金額）に目をつぶればすぐにでも取り組める技術になってきました。また、施肥にも利用が可能で、全国的には水田作や野菜などの大規模経営で利用が増えています。ただ、現状では施設栽培には利用ができません。

除草作業では、遠隔操作ができる自走草刈機や乗用草刈り機もありますが、今回は、無人で除草を行う除草ロボットを紹介します。機体は充電式で自走し、園内の走行範囲はワイヤーを埋め込みます。充電は自動で充電器に帰り充電が出来たら再び走行して除草を行います。除草作業に時間がかかりますが無人で栽培に支障がない程度に

草刈りを行ってくれます。導入に際しての課題は、機体が高価であること、電源が必要なこと、傾斜が緩く土地がある程度均平であることなどが条件となります（写真2）。  
その他、カンキツ栽培で利用が考えられるスマート農業機械として、AIカメラを搭載した家庭選別機や持ち上などの力仕事などをサポートするアシストスーツ（写真3）、センサーにより日照や土壌水分などを測定して灌水やハウス換気を無人で行う自動化装置などが製品化されています。



写真3 アシストスーツ（農水省HPより引用）

## 3 おわりに

技術開発は日進月歩で進んでいますが、機械は人が管理して初めて機能が発揮できます。農業は食料を生産する大事な産業です。機械の開発だけで農家が増えるものではありませんが、先進技術を上手に取り入れられる導入コスト低減や環境づくりも重要なことと考えます。